

高速増殖原型炉「もんじゅ」原子炉設置許可無効確認訴訟の 最高裁判決について

平成 17 年 6 月 7 日

5 月 30 日、最高裁判所第一小法廷において、上記判決が言い渡された。
判決の主文は、原判決の破棄、被上告人の控訴棄却^(注)(上告人国側の
勝訴)とのことであり、本件高速増殖原型炉「もんじゅ」に係る原子炉設
置許可処分に係る上告人国側の主張が認められた。

(注) 被上告人敗訴の一審判決が確定する。

【本件の概要】

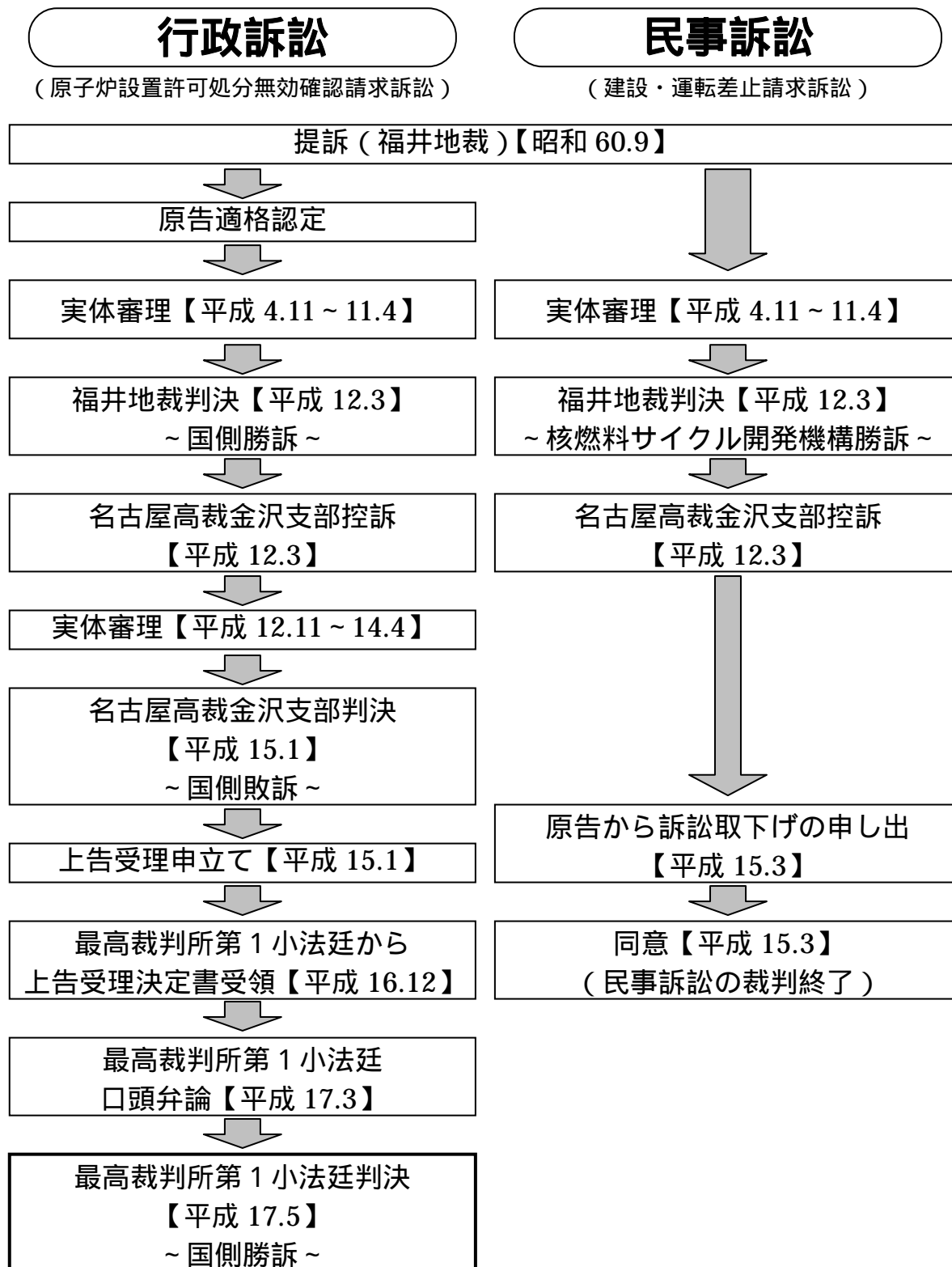
平成 15 年 1 月に高速増殖原型炉「もんじゅ」の原子炉設置許可処分
を無効(国側敗訴)とする原判決(名古屋高裁金沢支部)が出されたこ
とを受け、国側が最高裁に上訴していたもの。本年 3 月 17 日に上告審
口頭弁論が最高裁判所第一小法廷において開かれ、5 月 30 日午後 3 時
00 分に判決が言い渡された。

なお、判決本文は以下のホームページで閲覧可能。

<http://courtdomino.courts.go.jp/judge.nsf/dc6df38c7aabdcdb149256a6a00167303/50a6d1d357a729f149257011002c82e1?OpenDocument>

(参考)「もんじゅ」訴訟の経緯等について

1. 経緯



2. 行政訴訟第1審及び第2審の判決要旨

第1審（地裁）判決要旨

原告らの請求を棄却する。

- ・ 安全審査に重大かつ明白な瑕疵と言える見過ごし難い過誤、欠落はない
- ・ 実体的、手続的に適法

第2審（高裁）判決要旨

原判決を取り消す。設置許可処分は無効

- ・ 「違法の明白性」は不要
設置許可を無効とする要件は「違法の重大性」で足り「違法の明白性」は不要
- ・ 「違法の重大性」の考え方
具体的危険性（違法の重大性）の存在を積極的に認定することは不要であり、具体的危険性が否定できない場合（抽象的可能性として考えられる場合）は重大性を肯定すべき

3. 「もんじゅ」高裁判決の主な技術的争点

床ライナについて（ナトリウム漏えい）

（判決主旨）床ライナの審査には、腐食の考慮と温度評価に重大な誤りや欠落があり、漏えいナトリウムとコンクリートが直接接触することを防止できる保証はなく、漏えい事故があると、影響が健全な他の2系統にも及び、炉心溶融が生じるおそれがある。

蒸気発生器の伝熱管破損について（ナトリウム・水反応）

（判決主旨）高温ラプチャが安全審査されておらず、その発生の可能性を排除できない。事故があると影響が他の健全な2系統にも及び可能性があり、反応してできた水素が炉心部まで到達し、炉心崩壊を起こすおそれがある。

仮想的炉心崩壊の考え方について（炉心溶融）

（判決主旨）炉心崩壊事故は、現実に関り得るものとして審査すべきであるのに、そうしておらず、発生エネルギーの評価にかかる審査にも重大な誤りや欠落があり、放射性物質が外部に放散される具体的危険性を否定できない。

4．上告受理申立て理由の要点

伊方最高裁判決違反、原子炉等規制法の解釈の重大な誤り

- ・ 非現実的な仮定の下で、「具体的危険性が否定できないこと」を基準に違法としたこと。
- ・ 後続の規制において審査対象とすべきものを審査の対象と解釈し、審査に欠落があったとしたこと。
- ・ 新知見が発見された場合に、安全審査の結論が維持されるかどうかを問題にしないで、直ちに違法としたこと。
- ・ 原子力安全委員会が行った判断を具体的根拠なく否定していること。

明白性を必要とする多数の最高裁判例違反

- ・ 行政処分（＝設置許可）を無効とするには、「重大かつ明白な違法性が必要」とした過去の最高裁判例を逸脱していること。

以上